

消防署の 配備資機材

消防隊員が進入できない倒壊建物を検索するときに、閉じ込められた要救助者を発見し、救出路を確保するため、コンクリートの壁や床を「できるだけ安全に、効率よく」破壊して救出する資機材をそろえました。

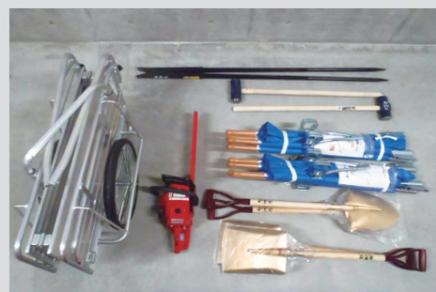
- 1 ピンチバール(破壊・重量物除去)
- 2 電動ハンマ(削岩)
- 3 ハンマドリル(コア抜き)
- 4 ディスクグラインダ(鋼材切断)
- 5 レシプロソー(軟鋼板・木材・合板切断)
- 6 簡易画像探索機(要救助者探索)
- 7 簡易画像探索機ディスプレイ
- 8 エンジンカッター(鋼材・コンクリート切断)



松前町の安全・安心を担う

震災に備え、震災用救助資機材を配備

防災
特集



消防団の配備資機材

消防団に配備した資機材は全8種。代表的なものは、瓦礫などの重量物を移動させるピンチバール、はり・柱などを切断し救出するためのチェーンソー、簡易担架など負傷者などを搬送する資機材です。その他、スコップやハンマーなどをそろえ、災害時に現場に駆けつけ、救助救出活動ができるようにしています。

今後30年の間に発生する確率が60%といわれる南海トラフ巨大地震。町では、平成24年度から「防災対策プロジェクトチーム(以下「PTT」)」を立ち上げ、課題の抽出・対策を検討。同年12月に行われた「災害に強い町を作る会」での意見を踏まえ、本年度より立ち上げた「PTT対策推進班」で、対策の実施を進めています。

その中で、本年6月に県の被害想定が発表され、町の被害予想が震度6強から震度7へと変更されました。消防署では、震度7の地震が発生した場合、住民の5%にあたる約150人が、倒壊家屋の下敷きになると

想定。救出可能な時間「3日間」でこの要救助者たちを救うため、震災用救助資機材を配備しました。画像探索器など高度な資機材を持つ部隊、瓦礫救助のための資機材を持つ部隊、木造家屋倒壊などに対応する資機材を持つ部隊の3隊を編制しています。

また、消防署の資機材の整備に合わせ、消防団23班にも資機材を整備。地域に密着した消防団が災害時にも実動できるようになりました。

災害時はこれらの資機材を有効に活用し、消防署・消防団・自主防災組織が連携し、一人でも多くの人を救助救出します。